

## ワクチン依存では感染は終息しない

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、全く収まる様子を見せません。コロナウイルスがどんな変異を起こすのかは彼ら次第ですが、コロナ感染症対策は人間のすべきことであり、全ての責任は私たちにあります。ここで第6波を数字の上で振り返っておきましょう。

第5波と第6波の定義は行政に任せるとして、ここでは2021年7月から10月までの4か月間の新規感染者報告数と、2022年元日から4月6日までの新規感染者報告数を比較します。全国の新規発症者総数は第5波92万人に対して第6波510万人で約5.5倍でした。感染者数のピークから約3週間遅れる死者数は第5波で3242人対第6波10,073人なので約3.1倍になりました。オミクロン株は軽症といわれましたが、死亡者の倍率も結構大きいものでした。

ところでCOVID-19ワクチンは本当に役立ったのでしょうか。大変な苦勞をして65歳以上高齢者の84%が追加接種を受けましたが（4月8日内閣府データ）、第6波での80歳以上の高齢者の感染者は第5波の10倍以上になりました。したがって、追加接種で第6波の感染爆発は抑えられていません。

世界に目を転じてみましょう。シンガポールでは1年半ばに追加接種割合が50%を超え、2月下旬には69%に達しました。ところがピーク時には感染者も死亡者数も1年半ばの20倍に増え、1日最高約4万人が感染しました（日本の人口に換算すると80万人相当）。韓国でも、追加接種割合が1月下旬に50%を超え、ピーク時の3月下旬には63%に達していたのに、ピーク時感染者数は1月下旬の70倍、死亡者数も20倍になりました。感染者数は最高1日62万人（日本の人口換算で150万人相当）でした。これらの事実が示しているのは、ワクチン頼りではCOVID-19の流行は終息しないということです。

さらに問題なのは、ワクチンでは強い免疫ができないことです。ワクチンを接種しても感染はします。その場合、ワクチン株の抗体が上昇するだけで、いつまで経っても強い免疫ができない可能性があります。他方、感染してできる自然免疫はワクチンよりもずっと強く、最初にできる免疫記憶が最も強いのです。子どもや若い世代では、感染しても軽症であるのに、ワクチンを受けてしまうと、将来にわたって強い免疫ができなくなることを本誌は真剣に不安視しています。特に小児において、それを強く危惧します。

ワクチンの問題は接種後すぐに起こる害だけではないのです。若い世代で接種が進まないことは幸いです。よく考えましょう。